

平成 25 年度 春期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>プロジェクト計画の策定段階において、プロジェクトマネージャ (PM) は、複数の計画案を比較検討しなくてはならない場合がある。その際に、スケジュールへの影響や、顧客や事業部門などのステークホルダの要求への適合性を総合的に検討し、最も適切な案を採択するプロセスを踏む必要がある。</p> <p>本問では、プロジェクト計画の複数の案を比較検討する場合を取り上げ、プロジェクト計画策定の基本的な能力である、ステークホルダマネジメント、スケジュール作成、リスク対応計画の策定などについて問い、PM としての基本的な能力を評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) クリティカルパス上の作業だから	
	(2) グローバルに接続拠点がある安全なネットワークを提供すること	
設問 2	(1) a 10	
	b 9	
	c 8	
	(2) K 社の業務に合わせた機能への対応に期間が掛かる。	
設問 3	(1) ・来年 1 月初めから利用したいという要求に対応できない。 ・新しい海外顧客向け大型製造装置の設計開始に間に合わない。	
	(2) 顧客が要求する形で定期的な管理レポートを提出できるか。	
	(3) サーバ管理についての監査ができない。	

問 2

出題趣旨	
<p>利用部門が策定したシステム化計画について、プロジェクトマネージャ (PM) には、与えられた個別システム化計画書を分析し、リスクを洗い出し、関連する情報を適切に収集し、利用部門と適切なコミュニケーションを取って、プロジェクト計画を作成することが求められる。</p> <p>本問では、プロジェクトの実行計画策定を題材に、リスクマネジメントの能力、ステークホルダとのコミュニケーションの進め方に関する能力、スケジュール管理の実務能力など、PM としての基本的な能力を評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考	
設問 1	機能はデータ集計とレポート作成だけであり、各事業部との調整が不要と想定している点		
設問 2	(1) ・最終利用者のモニタリングシステム開発の目的 ・最終利用者のモニタリングシステムに対する要望		
	(2) データ項目間の整合性を取る		
設問 3	(1) 各事業部の業務担当者		
	(2) ・モニタリングシステムの課題に対応する改修業務の優先順位を上げてもらう。 ・各事業部のシステム開発の計画を見直しモニタリングシステムに要員を割いてもらう。		
	(3) 開発要員の手配	・W 社のミドルウェアに詳しい要員が手配できない。 ・新基盤の知識をもった開発要員を手配できない。	
	システムの品質	・ミドルウェア不具合により品質目標を達成できない。 ・ミドルウェア不具合によりシステム品質が低下する。	
	開発スケジュール	・開発標準の完成を待つと開発着手が遅れる。 ・ミドルウェアの検証が遅れ年内に開発完了できない。	

問3

出題趣旨	
<p>システム開発プロジェクトの進行中に、プロジェクトの外部環境の変化による影響でプロジェクトの計画を変更せざるを得なくなる場合がある。プロジェクトマネージャ（PM）は、状況の変化に柔軟に対応し、プロジェクトの目標を達成しなくてはならない。</p> <p>本問では、企業合併によるスケジュール変更という制約の中で、プロジェクトへの影響の分析や、全体計画の変更とリスクへの対応について、PMとしての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	<ul style="list-style-type: none"> 運用テストが開始できる時期を確定する必要があるから 運用テストを円滑に行うには業務プロセスの理解が必要だから 	
設問2	(1) <ul style="list-style-type: none"> 開発の範囲は変わらないから 要件の変更がないから 	
	(2) 運用テストで発生する問題に対応する時間を確保するため	
設問3	(1) <ul style="list-style-type: none"> 新システムの業務プロセスに納得した理由を説明し、M社の業務部門の理解を得る。 新システムの業務プロセスを理解するポイントをM社の業務部門に伝える。 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> 新たな業務プロセスを前向きに評価すること 業務プロセスの変更に抵抗感をもたないようにすること 	
設問4	(1) M社のデータ移行のための要員を確保すること	
	(2) 新システムのデータ仕様が早期に把握できるから	

問4

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）は、プロジェクトの遂行に当たり、まずステークホルダの特性を分析し、ステークホルダに関連するリスクを適切に識別しなければならない。次に識別されたリスクに対して、ステークホルダの協力を得ながら、適切に対応していく必要がある。</p> <p>本問では、組込みソフトウェアの開発を題材に、ステークホルダに関連するリスクへの対応について、PMとしての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考				
設問1	顧客満足度を向上させるための企画部の重要な要求を、十分に取り込めなくなる。					
設問2	(1) U社のプロジェクトマネジメントの実力を確認するため					
	(2) <table border="1"> <tr> <td>使用頻度が</td> <td>高い</td> </tr> <tr> <td>累積使用時間が</td> <td>長い</td> </tr> </table>	使用頻度が	高い	累積使用時間が	長い	
	使用頻度が	高い				
	累積使用時間が	長い				
	(3) <table border="1"> <tr> <td>作業の順序を</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 先行させる。 前にする。 </td> </tr> <tr> <td>作業の密度の計画値を</td> <td>高くする。</td> </tr> </table>	作業の順序を	<ul style="list-style-type: none"> 先行させる。 前にする。 	作業の密度の計画値を	高くする。	
作業の順序を	<ul style="list-style-type: none"> 先行させる。 前にする。 					
作業の密度の計画値を	高くする。					
(4) 開発規模と開発期間の確認						
設問3	(1) a 情報セキュリティ					
	(2) レビュー済の成果物の量					
	(3) 欠陥混入の原因分析を前工程も含めて行うこと					
	(4) 詳細設計での保守性に関するレビュー					